

2015年2月12日
第6回知の市場年次大会

拠点:大阪・千里山

「防疫薬総合管理」

身近な生活・環境害虫防除

—世界をリードする防疫薬と害虫防除—

連携機関：日本環境動物昆虫学会

後援：日本家庭用殺虫剤工業会

日本環境動物昆虫学会

安部八洲男

(大阪青山大学健康科学部)

1. 過去の開講実績

この科目は、これまでに6回開講しました。第1回目の2009年は東京工業大学で開講しましたが、その後は、関西に場所を移して、開講機関も日本リスクマネージャネットワーク(JRMN)に変わりました。開催場所は、大阪府環境農林水産研究所(大阪市)で、その後、関西大学千里山キャンパス(吹田市)で開講しています。

2. 「防疫薬総合管理」講義内容(2014年)

15回の講義で、内容は、害虫、効力、化学、製剤、防除の実際、安全性、登録など、基本的なことをすべてバランス良く網羅しています。

9名の講師で15回の講義を分担しています。講師の先生方は主に関西にお住まいですが、3名の講師は東京から、わざわざ大阪に出張して、講義をやってもらっています。

3. 研究所見学会

講義とは別に番外として、講義内容に関係ある研究所の見学会を始めました。2013年は兵庫県宝塚市にある住友化学(株)の健康・農業関連事業研究所に見学に行きました。ここは防疫用殺虫剤の合成、製剤、効力、物性などを研究している所です。当日は、平日の昼間にもかかわらず、この見学会には22名の参加者がありました。

2014年は住友化学(株)の生物環境科学研究所を見学しました。ここは、殺虫剤などの化学物質の安全性や環境への負荷などを研究している所です。18名の参加者がありまし

た。そのうち3名は、昨年の見学会にも参加された方です。

4. 2014年受講者の内訳

2014年度の受講者は、全部で合計20名ですが、その内訳は殺虫剤の製造・販売会社で研究・開発・販売などを担当している人たちで、これが14名（70%）と最も多い。

次が、ビジネスとして殺虫剤を使用するPCO業者が4名で、全体の20%です。このうち、2名は昨年続く再受講者です。この再受講者は、昨年受講したが、仕事の都合で欠席した日があったので、今年は受講できなかったところの話が聞きたいというものです。

その他は、ビジネスとして防疫薬とは関係ないが興味があると言う、一般市民が2名で10%です。

平均出席率は、約58%（再受講者を含む）でした。

5. 受講者集めの苦勞

本セミナー開講にあたり、最も苦勞することは、受講者集めです。一時期、受講者が10名を割りそうな時がありました。その時、講師の皆さんに、「受講者が最低何名なら開講するか」を尋ねました。すると、最低10名という事になりました。10名を切れば開講しないということです。東京から、わざわざ新幹線で出張して講義される先生が3名もあり、この3名の先生が来られないと、この講座は成立しません。そういうわけで、何とか10名以上を集めようと苦勞しています。主な方法は次の4つです。

1) チラシ配布、ポスター掲示

市立図書館、生涯学習センター、学校などに許可を得てポスターを掲示し、チラシを置かせてもらいます。これは、大変な時間と手間のかかる作業です。でも、ポスターやチラシを見て、受講申し込みをしたと言う人が、いつも数名ありますので、この方法の効果はあります。

2) FAX送付

次に、近畿の約35ヶ所の保健所や市の環境衛生課にセミナーの案内をFAXで送ります。これは、時々このFAXを見て申し込んだという受講者がありました。しかし、最近は行政改革などの影響で、保健所などは、害虫防除の担当者をどんどん減らして、ゴミや廃棄物担当者へシフトしており、受講申し込み者は少なくなりました。

3) 各種団体のHPや業界新聞へ掲載依頼

次に、学会、協会、工業会など、約15団体のHPに、このセミナーの案内を載せてもらうように依頼しました。HPに載せることを断る団体もあります。しかも、HPを見て受講申し込みをした人は、これまでにほとんどありませんでした。それで、昨年は、この方法は止めました。次回は2~3ヶ所に絞って依頼しようと考えています。

その他に、昨年は大阪の PCO 新聞に掲載を頼んだら、快く載せていただきました。昨年は依頼が遅かったので、これを見ての受講者はありませんでしたが、今年は、早めに掲載を頼もうと考えています。

4) ダイレクトメール

最後に、私の個人的な知人、友人にメールを送り、「あなたの会社の新人を受講者として派遣して下さい。社員の新人教育に最適です」と頼むのです。これが今のところもっとも効果があり、受講者の70～80%はこの方法で受講される人たちです。

6. 受講者募集のポスター兼チラシ

受講者募集のポスター兼チラシを作成し、これを、市立の図書館、生涯学習センター、市民センターなどへ許可を得て掲示し、置かせてもらいます。

7. 2015 年度開講の課題と抱負

- 1) 受講者は15名以上を確保したい。
- 2) 一般市民の受講者を増やしたい。その為には、募集のやり方を工夫する必要があると思う。
- 3) 好評なので、研究所見学会を継続する。

以上